

# 農業経営の未来戦略

## 日本農業の情勢 2015.10.15

京都大学大学院農学研究科

生物資源経済学専攻 寄附講座

「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座

【ディスカッション】

農業の産業としての特質とは？

### \* 技術的特質

- \* 生命現象の利用（直接に製造はできない）
- \* 作業・工程の順序の入れ替えの困難性
- \* 気象等の自然条件に大きな影響を受ける

### \* 商品的特質

- \* 腐りやすく、潰れやすい
- \* 大きさや重量等が不揃い（規格化の困難性）
- \* 日常的に高頻度で購入される

### \* 主体的特質

- \* 一般に家族経営が大宗を占める

# オランダの大規模施設園芸



# 次世代につなぐ 農業生産資源・人的資源の現状

# 農業生産資源の現状 日本の国土利用と耕地面積の現況

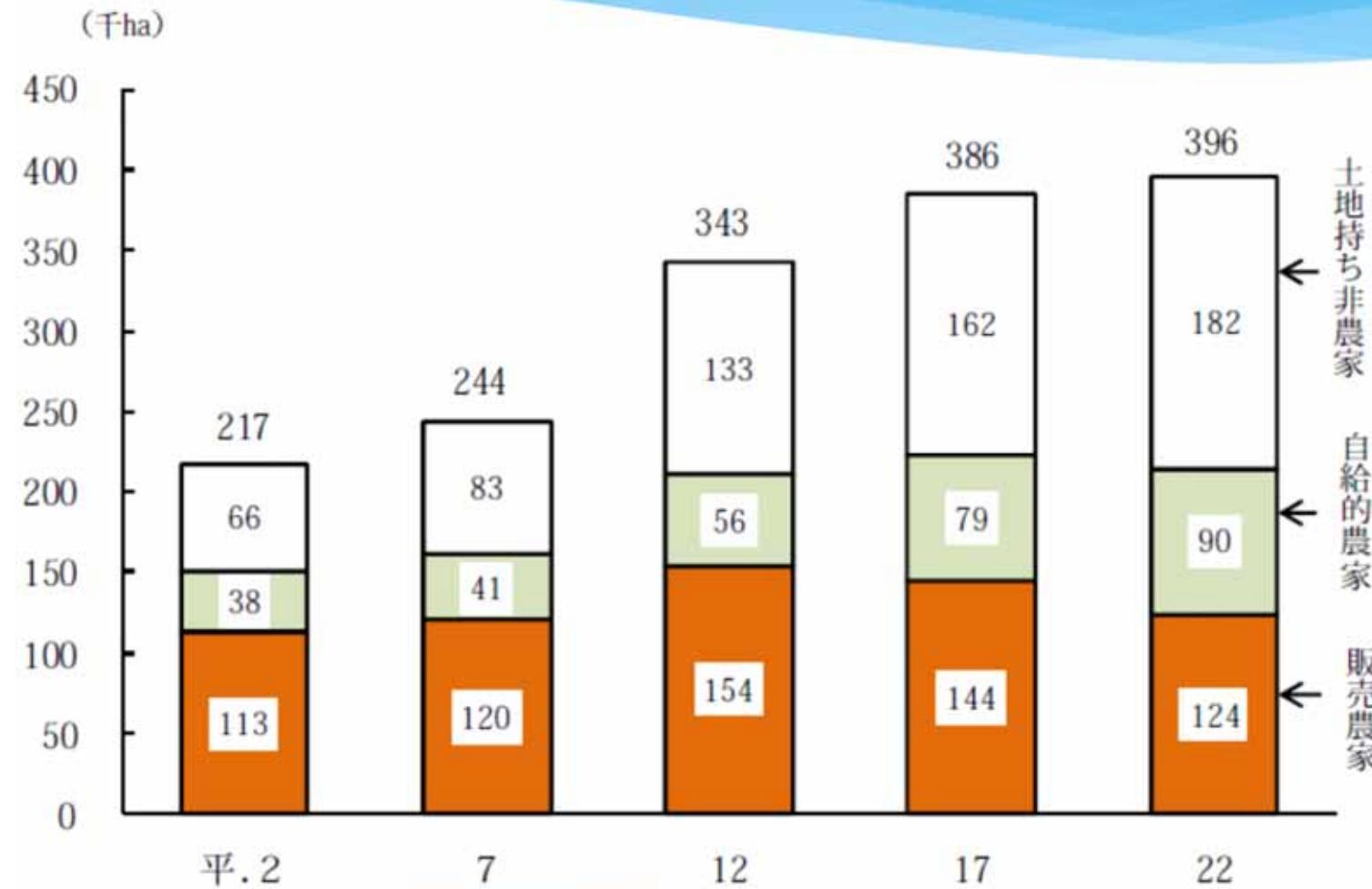


約600万ha (1960年)  
→約450万ha (2010年)  
・約105万haが農用地開発等  
で拡張  
・約253万haが宅地等への転  
用により潰廃  
・兼業化の進展とともに、耕地  
利用率も低下

資料:農林水産省「耕地及び作付面積統計」

# 農業生産資源の現状

## 耕作放棄地面積

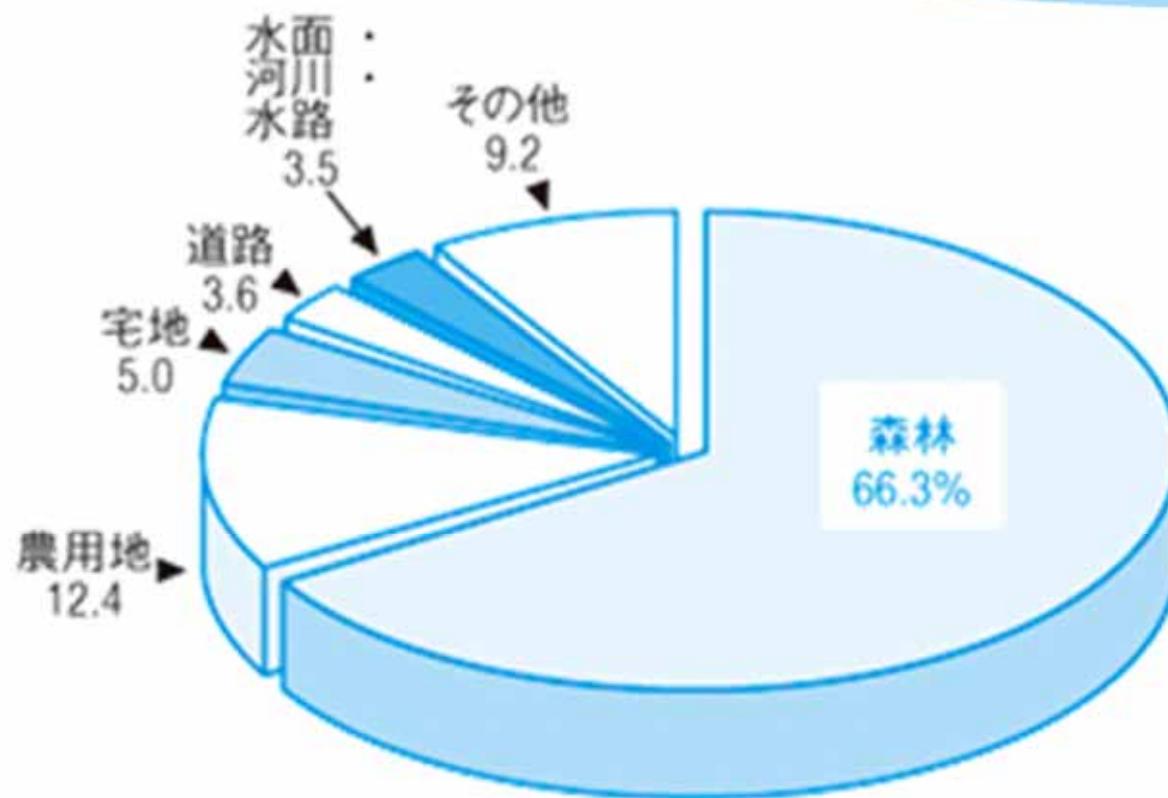


資料:農林水産省「2010年世界農林業センサス結果の概要」

# 農業生産資源の現状 世界の国土利用と耕地面積の現況

国	国土面積 (千ha)	耕地面積 (千ha)	割合
世界計	13,442,485	1,411,117	10.50%
アメリカ	963,203	170,428	17.69%
フランス	54,919	18,433	33.56%
ドイツ	35,712	11,877	33.26%
日本	37,793	4,326	11.45%
韓国	9,972	1,597	16.01%
オランダ	415	106	25.54%

# 国土利用の現況



資料 国土交通省「土地白書」

# 農業生産資源の現状 積雪寒冷特別地域

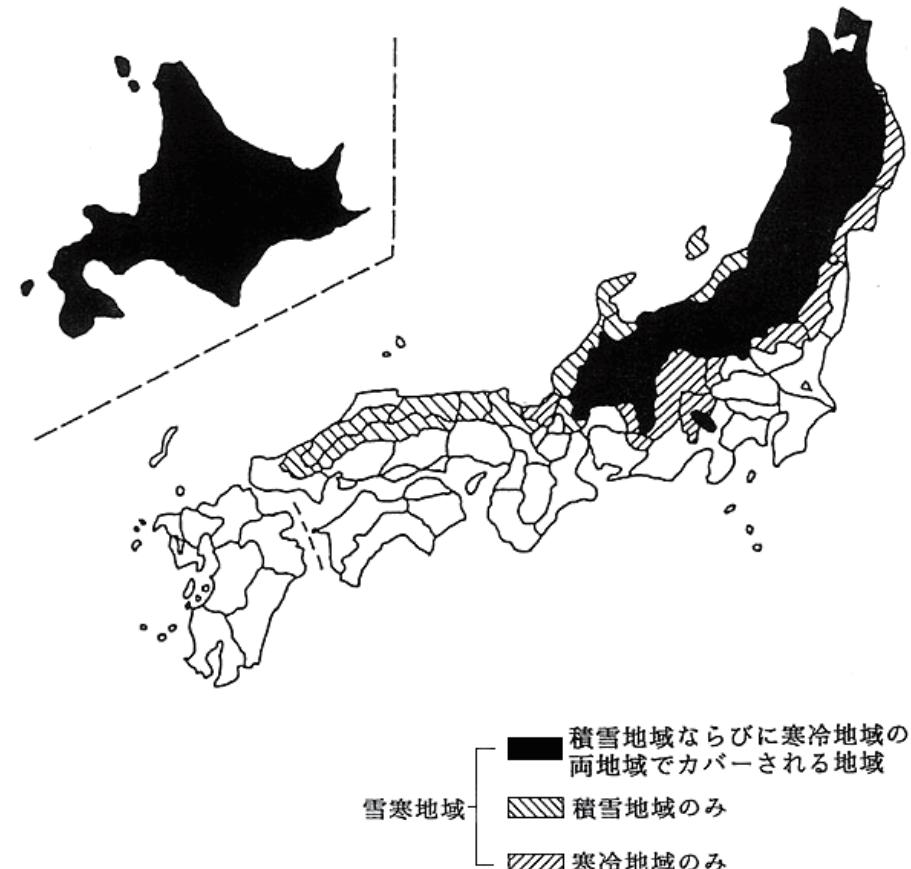


図 積雪寒冷特別地域の指定条件

資料：建設省

出所 <http://www.hrr.mlit.go.jp/library/hokuriku2003/s3/3-04/01kanreiti/01kanreiti.html>

国土の約60%が「積雪寒冷特別地域における道路確保に関する特別措置法（雪寒法）」により、積雪および寒冷地域に指定

- \* この地域に全国民の約20%
- \* 上記の地域では、水田におけるコメと麦・ナタネなどの二毛作の展開は困難

# 農業生産資源の現状 水路・ため池の現況

農業用用排水路		約40万km (地球約10周分)
	うち基幹的水路	約5万km

資料:農林水産省「農業基盤情報基礎調査(H22年)」、

注:これら施設の多くは老朽化が進行しており、用排水路等で耐用年数(40年)を超過しているのが、2割強

全国のため池	約21万箇所
受益面積2ha以上	約6.4万箇所
整備済み地区数	約1.3万地区

資料:農林水産省「農業基盤情報基礎調査(H22年)」

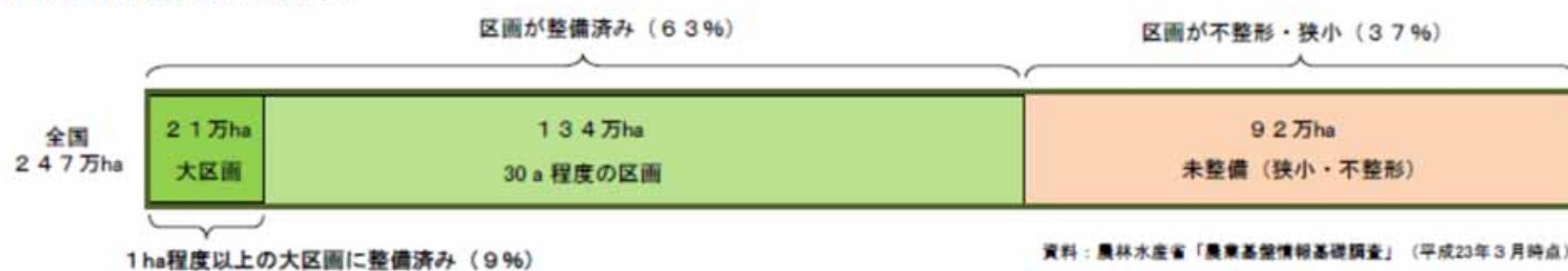
注:受益面積が2ha以上のため池の約3/4が江戸時代以前に築造されている

# 農業生産資源の現状 わが国における分散錯囲の現状



○水田の整備状況(平成23年)

水田の6割以上が区画整備済み



# 農業生産資源の現状 わが国における分散錯圃の現状（30ha規模の経営）



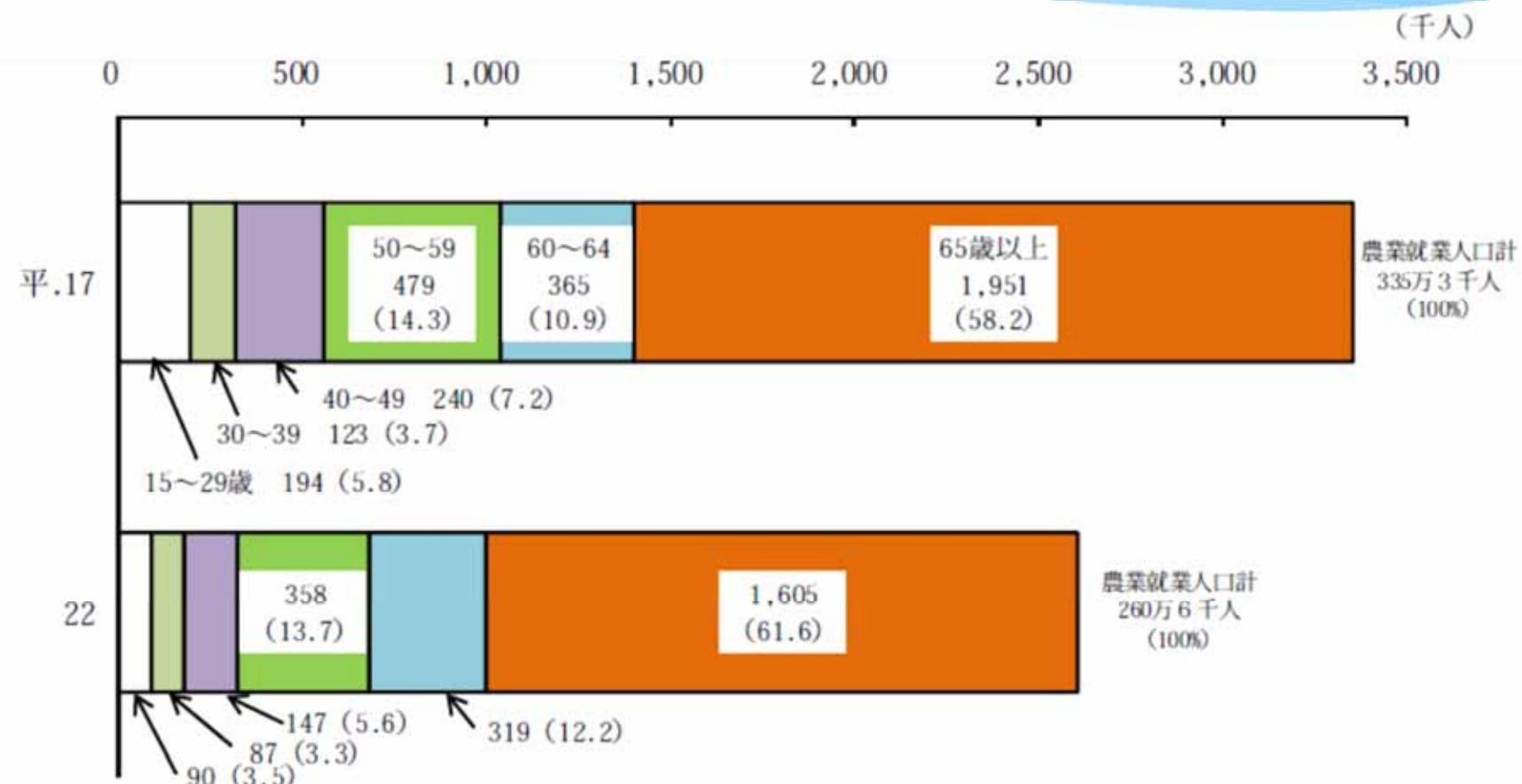
# 農業生産資源の現状 農家数の推移



資料：農林水産省 「2010年世界農林業センサス結果の概要」

# 農業生産資源の現状

## 農業就業人口



注：（ ）内の数値は構成比である。

資料：農林水産省 「2010年世界農林業センサス結果の概要」

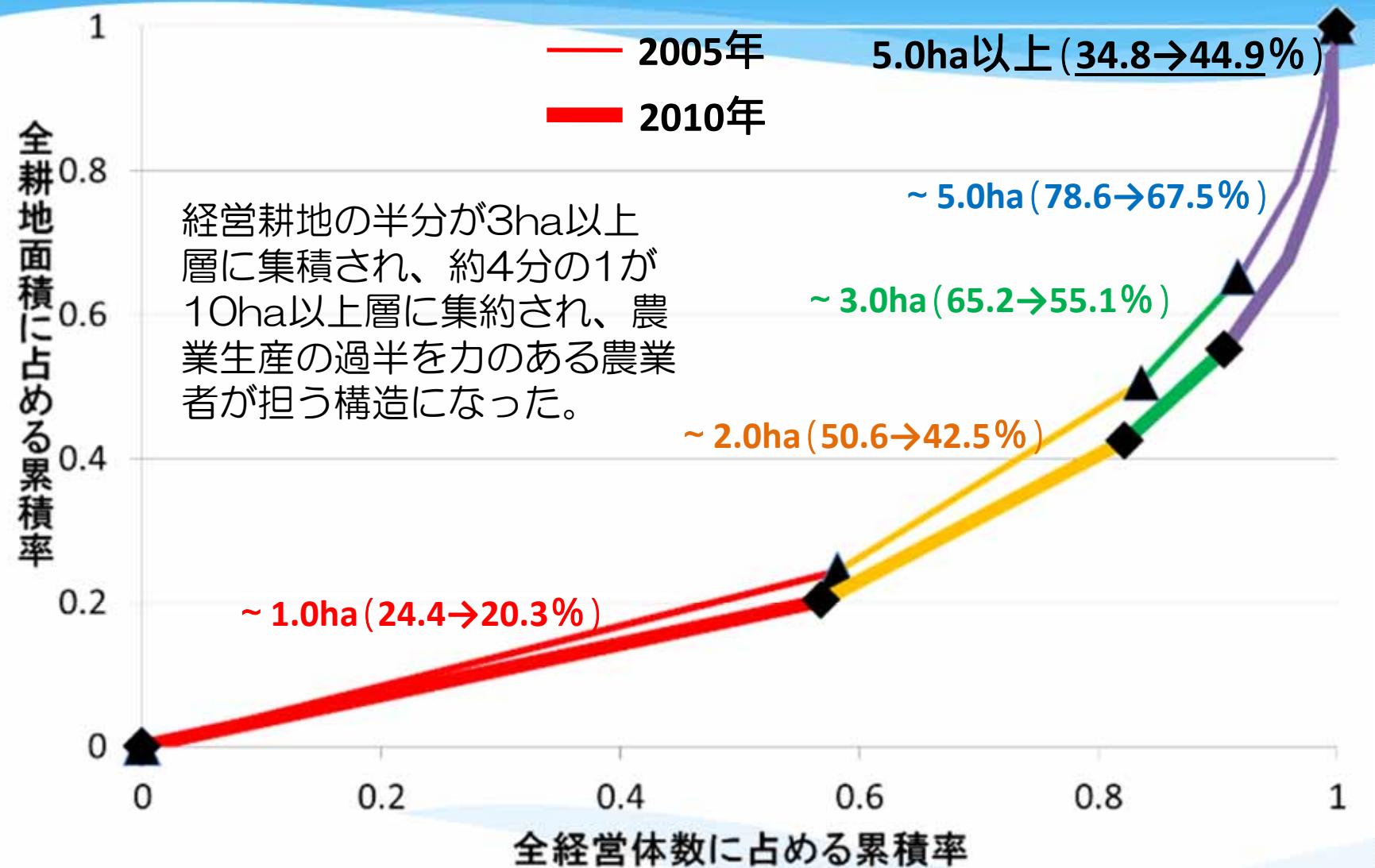
# 農業生産資源の現状

## 1 経営体当たり平均経営耕地面積

単位 : ha

区 分	全 国	北海道	都府県
平.17	1.9	20.1	1.4
22	2.2	23.5	1.6
増加面積	0.3	3.4	0.2

# 農業生産資源の現状 農業経営体数と規模分布



# 農業生産資源の現状 新たな農業の担い手の出現

組織経営体の増加（2005～2010）

	農業経営体	組織経営体		
			法人	非法人
2005年	2,009,380	28,097	13,869	13,723
2010年	1,679,084	31,008	17,069	13,602
増減率 (2005年比率)	83.6%	110.3%	123.1%	99.1%

家族経営体以外の新たな経営体として、集落営農、第三セクター、企業（食品関連企業からの参入等）などが出現。  
→統計的にも増加が確認できる。

## 農業生産資源の現状

### 日本の農業・農家・農村の特徴

- \* 農業の技術的特質に基づく農繁/農閑期の区別
  - \* 特に国土の約60%は積雪のため冬季栽培不可
- \* 経営耕地の狭隘性、分散錯囲性
- \* 中山間地に代表される条件不利農地の存在
- \* 農作業機械化が進んだ作目の栽培農家の兼業化
  - \* 特に水稻作農家
- \* 農地所有への過度なこだわり
  - \* 転売期待など
- \* 部外者に対する農業集落の過度な排他性
- \* 不安定な農産物生産及び価格による農家所得の不安定性

# 農業経営の戦略的視座

## わが国農業の将来に向けての戦略的視座

農地などの農業生産  
資源を健全な状態で  
次世代へつなぐ

整合させることが重要

個別農業経営体の  
経営目標

- \* この整合性が保てなくなる危惧
  - \* 遊休農地・耕作放棄地の増加
  - \* 農外企業参入や農業の準工業化への期待

# 農業を取りまく情勢の変化

# 農業を取り巻く情勢変化

## 農産物消費の動向

- \* 人口の動向

- \* 人口減少傾向下での都市部への人口集中
  - \* 世帯員の減少と単身世帯（若年・老齢層）の増加

- \* 消費の動向

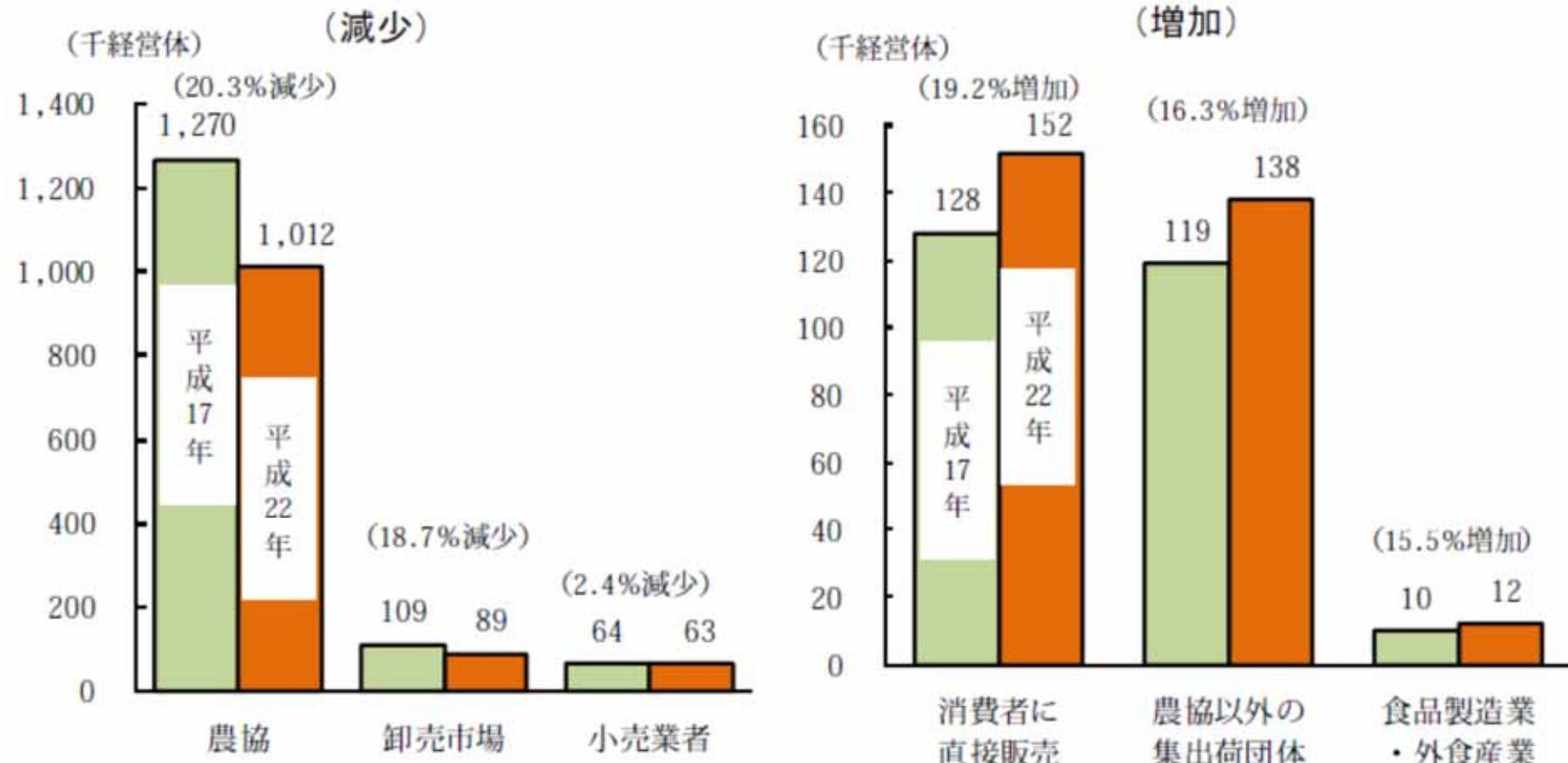
- \* 一人当たり青果物消費量の減少
  - \* 世帯消費支出の傾向
    - \* 長期的には減少傾向
    - \* 近年の特徴：好きなもの・必要なものは高くても買う

# 農業を取り巻く情勢変化 卸売市場経由率の推移(%)

年	青果	うち野菜	うち果実	水産物	食肉	花卉
1989	82.7	85.3	78.0	74.6	23.5	83.0
2009	63.6	75.5	47.1	58.0	10.3	85.1

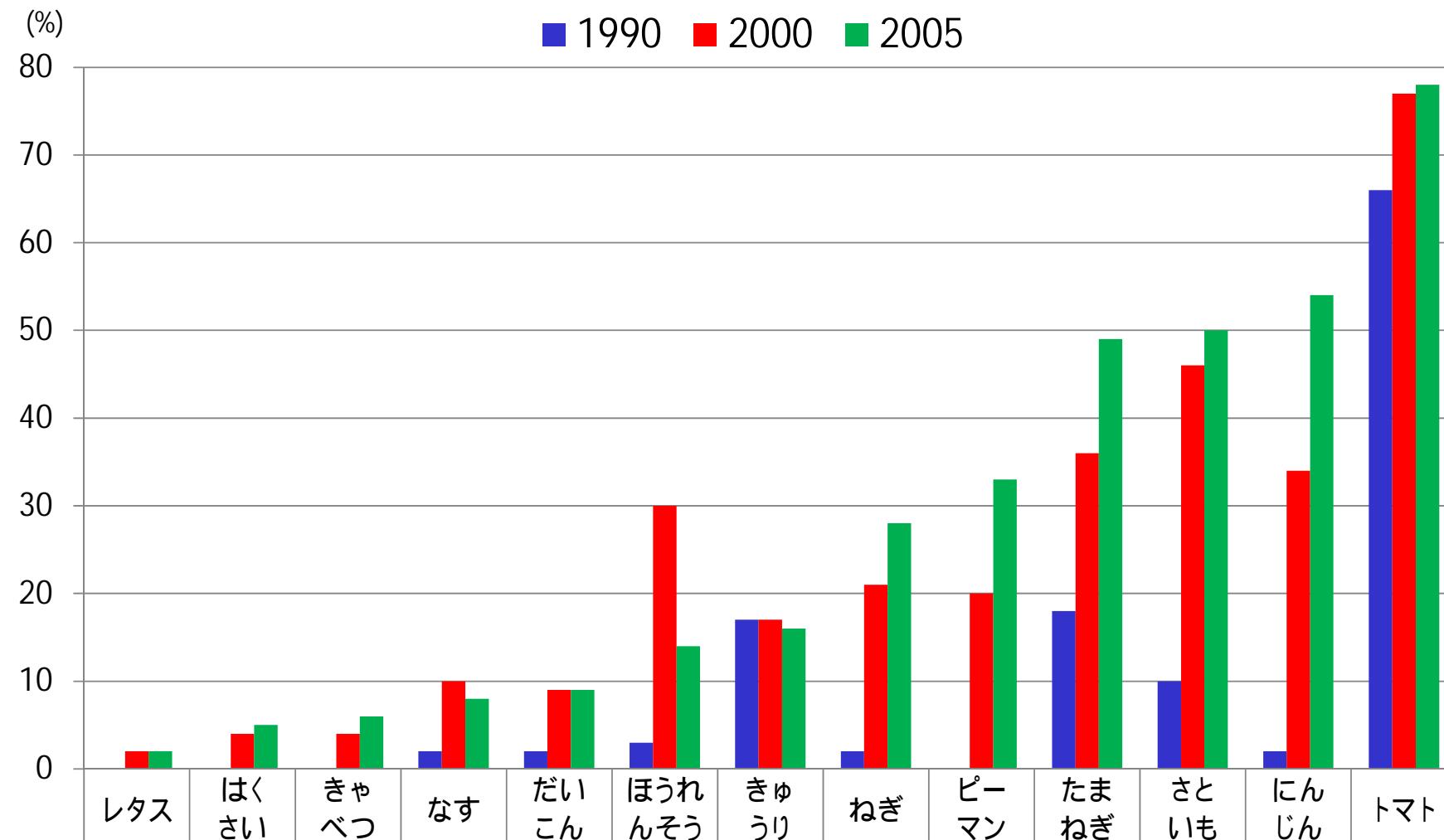
- 農水省が、国内で流通した国産・輸入品の内、卸売市場を経由した数量（花卉は金額）の割合を、食料需給表、青果物卸売市場調査報告等から推計した数字
- ジュース・缶詰等の加工品原料として使用されたものも含む
- 水産物についてはいわゆる産地（水揚げ）市場の取扱高を除く

# 農業を取り巻く情勢変化 農業経営体の農産物売上 1 位の出荷先



資料：2010農林業センサス

# 農業を取り巻く情勢変化 加工・業務用需要における輸入割合の変化



資料：農林水産政策研究所推計

# 農業を取り巻く情勢変化 農産物流通や小売の動向（特に青果物）

- \* 従来からの流通の役割の低下
  - \* 卸売市場流通の低迷・市場外流通の増大と革新
  - \* 大都市拠点市場への集中と地方卸売市場の衰退
  - \* 卸売業者・仲卸業者の経営不振
  - \* 農協共販率の低下
  - \* 量販店の台頭と専門商店（ハピ屋、果物屋等）の減少
- \* 安売り競争のさらなる激化（消費税率のアップで拍車）
- \* 生産者直売所の一層の増加
- \* 地域生活市民生協や都市型個配・直販業者の進展
- \* 外食チェーン店の競争激化
- \* 宅配業者の利用と進出（新しい意味での産直）
- \* コンビニでの青果販売の拡大